

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2013年1月）の予測

発表日：2013年3月1日（金）

～基調判断は「下げ止まり」に上方修正される公算大～

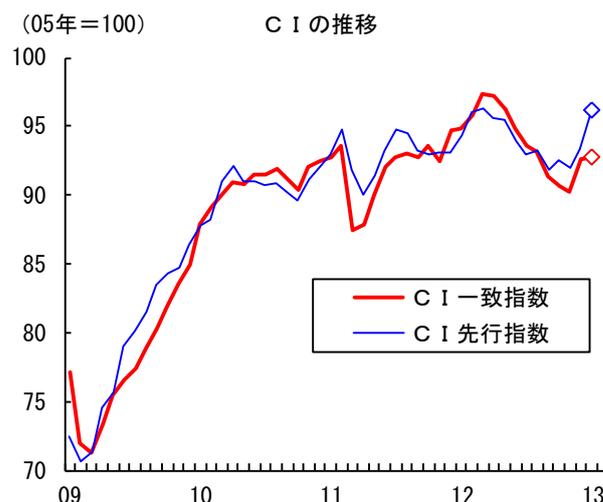
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から3月7日に公表される2013年1月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+0.2ポイントと2ヶ月連続の上昇が予想される。プラス幅は小さいが、12月の大幅上昇の後には悪くない結果だろう。採用系列のうち、生産財出荷指数、投資財出荷指数、中小企業出荷指数などが前月の大幅上昇の反動からマイナス寄与になったが、耐久消費財出荷指数や有効求人倍率などがプラス寄与となり、C I全体では小幅プラスになった模様だ¹。

先行きの見通しも良好だ。昨日公表された鉱工業指数では、12年12月、13年1月と2ヶ月連続で前月比プラスとなったことに加え、予測指数でも増産が見込まれている。C I一致指数に生産関連の系列が多く採用されていることを踏まえると、C Iも先行き上昇が続く可能性が高いだろう。C I一致指数は昨年春以降低下が続いていたが、12年11月を底に改善基調に転じたとみられる。

また、C I先行指数は前月差+2.8ポイント（12月：+1.4ポイント）が予想される。これで2ヶ月連続の上昇であり、上昇幅も非常に大きい。先行指数も昨年9月～11月を底として改善傾向にあると思われる。この点も、先行きの景気が回復する可能性が高いことを示唆する材料の一つだ。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月までの「悪化」から、1月は「下げ止まり」に上方修正される可能性が高い。ただし、「基調判断を上方修正する際には、その月のC I一致指数が前月差で改善している必要がある」というルールが存在することには注意が必要だ。筆者は1月のC I一致指数は前月差+0.2ポイントと予想しているが、プラス幅は僅かだ。そのため、仮に3月5日発表の所定外労働時間が予想より下振れた場合、C I一致指数も前月差マイナスになる可能性がある。この場合、基調判断は「悪化」のまま据え置かれることになり、「下げ止まり」への上方修正は2月分に持ち越しとなる。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2013年1月は第一生命経済研究所による予測値

¹ 現時点で未公表である所定外労働時間（3/5 公表）については筆者による仮置き値を用いて試算している。